

## 科学技術・イノベーション基本計画の進捗確認における見解（案）

1. 価値共創型の新たな産業を創出する基盤となるイノベーション・エコシステムの形成
  - (1) 社会実装に至るまでは人材の確保が重要であるが、資金調達やガバナンスの在り方の検討、会社のアピール等求められる人材は多様であり、どのような人材が不足しているのかという観点での深掘りが必要。
  - (2) 社会実装後の継続的なエコシステムの形成へ至るためには、ファンドへの投資を行う者はベンチャーキャピタルか銀行系か、海外系等様々なタイプが有る。資金の多寡だけではなく、事業展開におけるそれぞれのメリット、デメリットも明確にした上でエコシステム形成への戦略を検討することが必要ではないか。
  - (3) 特にテック系のスタートアップは、研究力だけでなく、知財の活用の強化が必要であり、その視点でのモニタリングが必要。
  - (4) SBIR のステージゲートの審査においては、スタートアップの非常に尖った技術とイノベーションを実現するためにルールを変えるところの連携をいかに進められるかが、重要となってくる。研究成果の中身について実施省庁がユーザー業界と対話を進めながらビジネス機会を生かす社会実装を見据えたロードマップの設計が望まれる。
  - (5) 個別に施策の支援対象となっている企業等だけでなく、該当の業界全体でイノベーション・エコシステム、そのための環境が整っているかそのようなエコシステムが成り立つかの評価軸の検討が望まれる。
  - (6) 人材や知財等の活用を把握するためには、日本全体で DX を進め、データを利活用できるシステムを構築すること、データ活用を行っていくことが一番重要である。

## 2. 様々な社会問題を解決するための研究開発・社会実装の推進と総合知の活用

2月26日の評価専門調査会の議論を踏まえて作成